



教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数						
		講義	演習	実験・実習	計							
	医学系研究科 看護学専攻博士後期課程	科目 5	科目 2	科目 0	科目 7	14		単位				
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等				
			教授	准教授	講師	助教	計	助手				
			人	人	人	人	人	人	人			
新設	医学系研究科 看護学専攻（博士後期課程）		10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	8 (8)	平成31年4月 事前伺い		
	人文社会科学研究科 法文学専攻（修士課程）		29 (29)	25 (25)	0 (0)	0 (0)	54 (54)	0 (0)	8 (8)			
	既設	人文社会科学研究科 産業システム創成専攻（修士課程）		15 (15)	17 (17)	2 (2)	2 (2)	36 (36)	0 (0)	16 (16)	平成31年4月 事前伺い	
		教育学研究科 心理発達臨床専攻（修士課程）		2 (2)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	12 (12)	平成31年4月 事前伺い	
		教育学研究科 教育実践高度化専攻（専門職学位課程）		21 (21)	15 (15)	2 (2)	0 (0)	38 (38)	0 (0)	46 (46)	平成31年4月 事前伺い	
	分	計		77 (77)	64 (64)	5 (5)	2 (2)	148 (148)	0 (0)	- (-)		
組織	医学系研究科 医学専攻（博士課程）		48 (48)	59 (59)	33 (33)	0 (0)	140 (140)	0 (0)	3 (3)	令和2年4月 名称変更（予定）		
	医学系研究科 看護学専攻（博士前期課程）		10 (11)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	16 (17)	0 (0)	34 (34)			
	理工学研究科 生産環境工学専攻（博士前期課程）		17 (17)	18 (18)	3 (3)	4 (4)	42 (42)	0 (0)	9 (9)			
	理工学研究科 物質生命工学専攻（博士前期課程）		17 (17)	11 (11)	2 (2)	8 (8)	38 (38)	0 (0)	5 (5)			
	理工学研究科 電子情報工学専攻（博士前期課程）		13 (13)	14 (14)	2 (2)	6 (6)	35 (35)	0 (0)	11 (11)			
	理工学研究科 数理物質科学専攻（博士前期課程）		23 (23)	20 (20)	0 (0)	11 (11)	54 (54)	0 (0)	8 (8)			
	理工学研究科 環境機能科学専攻（博士前期課程）		15 (15)	15 (15)	0 (0)	6 (6)	36 (36)	0 (0)	3 (3)			
	理工学研究科 生産環境工学専攻（博士後期課程）		17 (17)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	35 (35)	0 (0)	0 (0)			
	理工学研究科 物質生命工学専攻（博士後期課程）		17 (17)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	0 (0)			
	理工学研究科 電子情報工学専攻（博士後期課程）		13 (13)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	0 (0)			
	理工学研究科 数理物質科学専攻（博士後期課程）		22 (22)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	36 (36)	0 (0)	0 (0)			
	理工学研究科 環境機能科学専攻（博士後期課程）		15 (15)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	0 (0)			
	農学研究科 食料生産学専攻（修士課程）		18 (18)	13 (13)	2 (2)	7 (7)	40 (40)	0 (0)	13 (13)			
	農学研究科 生命機能学専攻（修士課程）		6 (6)	8 (8)	0 (0)	4 (4)	18 (18)	0 (0)	20 (20)			
	農学研究科 生物環境学専攻（修士課程）		17 (17)	16 (16)	0 (0)	2 (2)	35 (35)	0 (0)	32 (32)			
	連合農学研究科 生物資源生産学専攻（博士課程）		40 (40)	29 (29)	1 (1)	3 (3)	73 (73)	0 (0)	1 (1)			
	連合農学研究科 生物資源利用学専攻（博士課程）		35 (35)	26 (26)	2 (2)	6 (6)	69 (69)	0 (0)	1 (1)			
	連合農学研究科 生物環境保全学専攻（博士課程）		25 (25)	19 (19)	0 (0)	2 (2)	46 (46)	0 (0)	4 (4)			
	分	計		368 (369)	320 (320)	48 (48)	60 (60)	796 (797)	0 (0)		- (-)	
	合計			445 (446)	384 (384)	53 (53)	62 (62)	944 (945)	0 (0)		- (-)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計					
	事務職員		320人 (320)		437人 (423)		757人 (743)					
	技術職員		514 (514)		140 (130)		654 (644)					
	図書館専門職員		18 (18)		0 (0)		18 (18)					
	その他の職員		1 (1)		475 (475)		476 (476)		大学全体			
計		853 (853)		1,052 (1,028)		1,905 (1,881)						

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
	校 舎 敷 地		317,826 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	317,826 m <sup>2</sup>				
	運 動 場 用 地		79,745 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	79,745 m <sup>2</sup>				
	小 計		397,571 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	397,571 m <sup>2</sup>				
	そ の 他		4,259,386 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	4,259,386 m <sup>2</sup>				
	合 計		4,656,957 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	4,656,957 m <sup>2</sup>				
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
			220,240 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	220,240 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	116 室	100 室	576 室	17 室 (補助職員 0人)	7 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数		大学全体			
		医学系研究科看護学専攻博士後期課程			13 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特 定不能なため、 大学全体の数		
	医学系研究科 看護学専攻 博士後期課程	1,157,042 [336,333] (1,157,042 [336,333])	22,856 [8,683] (22,856 [8,683])	3,028 [2,968] (3,028 [2,968])	6,724 (6,724)	11,117 (11,117)	1 (1)			
	計	1,157,042[336,333] (1,157,042 [336,333])	22,856 [8,683] (22,856[8,683])	3,028 [2,968] (3,028 [2,968])	6,724 (6,724)	11,117 (11,117)	1 (1)			
図 書 館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		10,615 m <sup>2</sup>		979		786,305				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		10,218 m <sup>2</sup>		武道場1, 弓道場1, テニスコート22面, 水泳プール4基						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営費交 付金）による	
	経費 の見 積り	教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—		—
		共同研究費等		—	—	—	—	—		—
		図書購入費	—	—	—	—	—	—		—
		設備購入費	—	—	—	—	—	—		—
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
— 千円		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			—							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称 国立大学法人 愛媛大学									
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	法文学部	年	人	年次 人	人	学士 (法学・政策学, 学術, 人文学)	1.04		愛媛県松山市文京 町3番	
	人文社会学科	4	365	3年次 30	1,520		1.04	平成28年度		
	教育学部					学士 (教育学)	1.05		愛媛県松山市文京 町3番	
	学校教育教員養成課程	4	140	—	560		1.05	平成11年度		
	特別支援教育教員養成課程	4	20	—	80		1.01	平成20年度	”	
	社会共創学部					学士 (社会共創学)	1.06			
	産業マネジメント学科	4	70	—	280		1.05	平成28年度	愛媛県松山市文京 町3番	
	産業イノベーション学科	4	25	—	100		1.07	平成28年度	”	
環境デザイン学科	4	35	—	140		1.03	平成28年度	”		
地域資源マネジメント学科	4	50	—	200		1.09	平成28年度	”		
理学部					学士 (理学)	1.05				
理学科	4	225	—	225		1.05	平成31年度	愛媛県松山市文京 町2番5号		

既設大学等の状況	数学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	平成17年度	〃	平成31年度より 学生募集停止	
	物理学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	平成17年度	〃	平成31年度より 学生募集停止	
	化学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	平成17年度	〃	平成31年度より 学生募集停止	
	生物学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	平成17年度	〃	平成31年度より 学生募集停止	
	地球科学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	平成17年度	〃	平成31年度より 学生募集停止	
	医学部							1.00			
	医学科	6	110	2年次 5	679	学士 (医学)	1.00	昭和48年度	愛媛県東温市志津 川454		
	看護学科	4	60	3年次 10	260	学士 (看護学)	1.01	平成6年度	〃		
	工学部							1.01			
	工学科	4	500	3年次 10	500	学士 (工学)	1.01	平成31年度	愛媛県松山市文京 町3番		
	機械工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成3年度	〃	平成31年度より 学生募集停止	
	電気電子工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成3年度	〃	平成31年度より 学生募集停止	
	環境建設工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成8年度	〃	平成31年度より 学生募集停止	
	機能材料工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成8年度	〃	平成31年度より 学生募集停止	
	応用化学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成3年度	〃	平成31年度より 学生募集停止	
	情報工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成3年度	〃	平成31年度より 学生募集停止	
	農学部							1.05			
	食料生産学科	4	70	3年次 5	290	学士 (農学)	1.07	平成28年度	愛媛県松山市樽味 3丁目5番7号		
	生命機能学科	4	45	3年次 2	184	学士 (農学)	1.04	平成28年度	〃		
	生物環境学科	4	55	3年次 3	226	学士 (農学)	1.05	平成28年度	〃		
	法文学研究科 (修士課程)										
	綜合法政策専攻	2	15	—	30	修士 (法学,経済学,学術)	0.49	平成10年度	愛媛県松山市文京 町3番		
	人文科学専攻	2	10	—	20	修士 (人文科学)	0.80	平成10年度	〃		
	教育学研究科 (修士課程)										
	特別支援教育専攻 特別支援学校教育専修	2	5	—	10	修士 (教育学)	0.70	平成17年度	愛媛県松山市文京 町3番		
	特別支援教育コーディネーター専修	1	6	—	6	修士 (教育学)	0.66	平成17年度	〃		
	教科教育専攻	2	20	—	40	修士 (教育学)	0.67	平成5年度	〃		
	学校臨床心理専攻	2	9	—	18	修士 (教育学)	0.55	平成16年度	〃		
	(専門職学位課程) 教育実践高度化専攻	2	15	—	30	教職修士 (専門職)	1.33	平成28年度	〃		
	医学系研究科 (博士課程)										
	医学専攻	4	30	—	120	博士 (医学)	0.87	平成18年度	愛媛県東温市志津 川454		
	(修士課程)										
看護学専攻	2	16	—	32	修士 (看護学)	0.71	平成10年度	〃			



別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(医学系研究科看護学専攻博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	生活支援看護開発学特講	1前	2			○			7	2				オムニバス 兼2 オムニバス オムニバス・共同(一部)
	地域看護システム開発学特講	1前	2			○			3					
	地域包括ケア演習	1後	2				○		4	1	1			
	小計(3科目)	—	6	0	0	—			10	2	1			
関連科目	地域医療学	1後		2		○			2					兼5 オムニバス 兼1 オムニバス 兼1 オムニバス
	応用統計学	1後		2		○				1				
	研究方法特講	1後		2		○			5					
	小計(3科目)	—	0	6	0	—			6	1				
特別研究	地域包括ケア開発学特別研究	1～3通年	6				○		10	2	1			
	小計(1科目)	—	12	0	0	—			10	2	1			
合計(7科目)		—	12	6	0	—			10	2	1			兼8
学位又は称号		博士(看護学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
修了要件は博士後期課程に3年以上在学し、専門科目の必修科目6単位、関連科目の選択科目から2単位以上、特別研究の必修単位6単位の合計14単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、博士論文審査並びに最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(医学系研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	生活支援看護開発学特講	<p>(概要) 病院および在宅で生活・療養する対象者の健康レベルを適切に評価した上で、健康レベルに応じた生活支援と快適ケア技術の開発と研究に必要な知識と研究技法について修得する。また、健康レベルを正しく評価して実践するためには、各病床機能の特徴や支援体制をふまえ、多職種と連携を図ることが必要である。在宅移行に向けて対象者や対象者を取り巻く様々な健康課題を包括的に捉えてそれを解決するためにどのようなケア技術や社会資源が有効か、ディスカッションしながら必要な知識ならびに実践できる能力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (6 佐伯由香/2回) オリエンテーション：本特講の概要と進め方 快適ケア技術とその評価方法について生理学的手法を用いた方法を中心に学修し、看護実践における応用を考察する。 (1 乗松貞子/1回) 病院及び在宅における快適ケア技術について具体的な実践方法やその効果について学修し、新しい快適ケア技術について考察する。 (11 赤松公子/1回) 痺れ等の知覚機能の評価ならびにその緩和方法を学修し、日常生活においてQOLを高めるケアについて考察する。 (2 八杉巧/1回) 循環器疾患に関する病因や経過を理解し、全国で展開されている地域包括ケアシステムの具体的な事例を紹介し、効果的な在り方を議論する。 (7 谷向知/1回) 認知症に関する病因や経過を理解し、全国で展開されている地域包括ケアシステムの具体的な事例を紹介し、効果的な在り方を議論する。 (4 山内栄子/2回) 地域で生活する人々の健康課題やその影響要因、高度急性期・急性期の医療や地域包括ケアの現状について国内外の研究を吟味し、地域包括ケアシステムにおける高度急性期・急性期の医療および看護の課題について考察する。 (3 薬師神裕子/2回) 小児慢性疾患ケアをモデルに在宅移行支援の確立方法と医療的なケアが必要な人々の生活支援における課題と現状について学修する。回復期・慢性期医療からの在宅移行支援における看護師の多職種との連携方法と重要性について考察する。 (12 田中久美子/2回) 要高齢介護者の在宅ケアについて、要介護者ならびに介護者の視点から訪問看護等のケアシステムについて議論を深める。在宅で過ごすための生活支援の方法について科学的な根拠に基づきケア論を展開する。 (5 崎山貴代/2回) 妊娠・出産・育児を取り巻く社会および医療情勢と地域社会の課題、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの尊重を基盤とした地域包括ケアの実践および研究の現状と課題について考察する。 (6 佐伯由香/1回) まとめ：学修したことを統合して、各学生の専門性に応じた対象者の健康課題を抽出し、それを解決するための対策をディスカッションする。</p>	オムニバス方式
	地域看護システム開発学特講	<p>(概要) 組織論や人材育成についての基本的な考え方に関する学修をふまえたうえで、地域包括ケアシステム構築のために課題を抱える実践現場の実態およびケアの質を科学的な視点で分析し、ケア提供施設や地域の特性に応じて、より効果的で効率的な生活支援が実施できる組織間連携も含めたケアシステムの構築について議論する。 (オムニバス方式/全15回) (8 西嶋真理子/1回) オリエンテーション：本特講の概要と進め方について解説する。地域支援事例をもとにケアシステム構築に必要な観点を議論し、本特講における学生自身の学修課題を意見交換により明確にする。 (19 青山 ヒフミ/3回) 保健医療福祉の動向を踏まえた上で時代の流れをつかみ、医療機関で起こっている変化に即した看護管理、組織論、組織デザインについて学修する。看護管理の考え方の歴史的变化から、現在の管理に要請されるリーダーシップについて、各種のモチベーション理論に関連づけて議論する。また看護管理の要素とプロセスについて、意思決定や看護管理過程の面から学修し、施設と地域をつなぐチームビルディングに関して考察する。 (20 松浦 正子/2回) 組織として地域のニーズに効果的に機能するための看護のキャリア開発、人材育成について学修し、看護の質保証のための組織の役割について議論する。また看護政策の変遷からこれからのチーム医療における看護職の役割について考察する。 (8 西嶋真理子/1回) 管理的な視点の学修から明らかになった、学生の実践領域や所属する組織が地域包括ケアシステムにおいて役割を果たすための課題と課題解決の方法について議論する。 (9 陶山啓子/2回) 様々な健康レベルの高齢者を対象としたケア提供施設におけるケアの質評価とその要因分析に基づき、質改善のために必要な人材育成、施設間・多職種連携の方法を学修し、高齢者が地域で暮し続けるために必要なケア提供システムやマネジメントについて議論する。 (10 藤村一美/2回) ファミリー・バイオレンスやジェンダーの観点から見落とされがちな健康問題について、課題の発見、共有と分析、強みを生かした解決方法の検討の過程を学修し、地域参加型予防システム開発のオーガナイザーとしての役割や課題について議論する。 (8 西嶋真理子/2回) 個別の支援から組織的な支援へと発展させた過程で、住民同士の支え合いや多職種連携による障害児やその家族のQOLが高まるケアシステム構築に着目し、各段階で看護職が果たす機能について学修する。地域の強みとなる資源を活用し、健康課題に応じた効果的なケアシステムの開発や子育て世代のヘルスニーズに対応する子育て世代包括支援センターのありようを議論する。 (8 西嶋真理子/2回) これまでに学修したことや学生の実践経験を踏まえて、地域包括ケアを推進していくために必要な組織デザイン、チームビルディングあるいは人材育成についてレポートを行い、看護の立場から当事者や家族の視点を重視した地域包括ケアのあり方を議論する。</p>	オムニバス方式

	地域包括ケア演習	<p>(概要) それぞれの研究課題に応じて、中山間地などの地域やその地域の保健・医療・福祉サービス提供機関等を選択し、フィールドワークを行う。フィールドワークの成果と多角的な文献検討を通じて、地域包括ケアの推進に必要な看護技術開発・実践モデルや看護ケアシステム開発に活用できる研究課題を明確にする。</p> <p>(オムニバス方式/全22回)</p> <p>(9 陶山啓子/1回) オリエンテーション (9 陶山啓子、8 西嶋真理子、7 谷向知、10 藤村一美、12 田中久美子、13 城賀本晶子、/4回) 研究課題とフィールドワークの目的・方法の明確化 ・学生自身の看護実践に基づく地域包括ケアを推進するための課題とその背景を明確化し、フィールドワークの目的・方法を決定する。 ・フィールドワークの目的・方法及び研究課題をプレゼンテーションし、教員や学生とディスカッションする。</p> <p>(9 陶山啓子、8 西嶋真理子、7 谷向知、10 藤村一美、12 田中久美子、13 城賀本晶子/12回) フィールドワークの実施 フィールドは、愛媛大学医学部寄附講座地域サテライトセンターがある地域で実施する。 ただし、必要に応じて、学生の実践フィールド等それ以外の地域、サービス提供機関でも実施する。 ・愛媛県西予市野村町(西予市立野村病院、地域包括支援センター、高齢者施設等) ・愛媛県久万高原町(久万高原町立病院、保健センター、高齢者施設等) ・愛媛県愛南町(県立南宇和病院、保健センター、御荘病院、高齢者施設等)</p> <p>(9 陶山啓子、8 西嶋真理子、7 谷向知、10 藤村一美、12 田中久美子、13 城賀本晶子、/2回) フィールドワークの成果発表 ・対象者が住み慣れた地域で暮らしているための健康課題とその要因 ・フィールドで実践されていた健康課題解決のための方策 ・フィールドで実践されていた地域包括ケアを推進するための方策 (9 陶山啓子、8 西嶋真理子、7 谷向知、10 藤村一美、12 田中久美子、13 城賀本晶子、/3回) フィールドワークの成果に基づいて、地域包括ケアを推進するための看護ケア方法・実践モデル・看護ケアシステム等の開発のための研究課題と方法をまとめて、発表する。</p>	オムニバス方式 共同(一部)
関連科目	地域医療学	<p>(概要) 地域医療の概念、地域医療の歴史について学び、地域医療学は臨床医学や社会医学、基礎医学、社会学などのあらゆる分野の学問が包括された学際的な学問領域であることを理解する。過疎化、少子・高齢化、が進行しつつある現状を踏まえ、地域のなかで、地域医療の在り方、多職種の連携の在り方について学修する。平穏時における救急医療、その後の生活視点における医療の役割についてわかりやすく解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 谷向知/3回) 認知症高齢者の医療の現状と課題 発達障害から認知症までのシムレスな生活支援を見据えた医療 災害時・避難所における認知症、児童の支援 (4 山内栄子/2回) がん医療において看護師が果たす役割 がんサバイバーが地域で暮らすための各時期における看護実践と支援 (14 川本龍一/2回) へき地を含む地域の予防医学、プライマリ・ケア、総合診療の現状 へき地における効率的な医療支援システムなどに関する教育システム(研修プログラム)の開発 (16 檜垣高史/2回) 周産期医療の現状と課題 我国とモンゴルの小児医療の比較から見る現状と課題 災害時における母子の支援 (15 佐藤格夫/2回) 平穏時における救急医療の現状と役割、課題 地域医療再生を担うドクターヘリ、広域搬送の役割と課題 災害時における救急医療の現状と役割、課題 (18 長野敏宏/2回) 精神医療を通して、精神障がい者、高齢者とともに生きる地域再興 西日本豪雨災害における活動とそこからみえてきた災害医療・福祉・行政との連携の在り方 (21 櫃本真事/2回) 政策医療の視点からみた地域医療 地域連携論 ～医療・介護・福祉の協働と包括的支援～</p>	オムニバス方式



関連科目	応用統計学	<p>(概要) 質的あるいは量的な研究において必要とされる統計学の概念、ならびに統計手法について、統計ソフトであるSPSSやSASを用いて学習する。また、論文クリティークを通じてデータを読み取る力を身につけ、統計学に基づく理論的構築の考え方を習得する。基本的な統計学を理解した上で、その応用となる一般線形モデル、共分散構造分析、階層化モデル等を理解し、実践の中で使えるようになることまでを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 赤松公子/8回) ①オリエンテーション 授業の目的と進め方 ②看護実践で発見した現象を量的データとして収集・整理する手法 ③質問紙の構成と研究デザインに適した統計手法の決定 ④統計解析の論文中の記載方法 ⑤看護研究論文における統計の応用について 論文クリティーク1 ⑥看護研究論文における統計の応用について 論文クリティーク2 ⑦看護研究論文における統計の応用について 論文クリティーク3 ⑧意見交換とまとめ</p> <p>(17 齊藤功/7回) ①多変量解析とモデルの構築 ②一般化線形モデル、階層化モデル ③因子分析、共分散構造分析 ④生存時間解析 ⑤メタアナリシスの考え方と方法 ⑥統計ソフト (SPSS) を用いた分析 ⑦統計ソフト (SAS) を用いた分析</p>	オムニバス方式
	研究方法特講	<p>(概要) エビデンスを基盤とした最良の地域包括ケアを提供すべく、地域包括ケアに関連するケアやシステムの開発、実践および検証に必要な研究方法を理解し、応用する能力を養う。また、介入研究や疫学研究、エスノグラフィーの手法を学修するとともにプレゼンテーションやディスカッションを通して、現象の理解、高度な看護実践およびケア成果の検証につながる研究方法について学修する。また、国際的な場で発表するための手法を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 佐伯由香/2回) オリエンテーション：本特講の概要、意義、進め方について概要する。 実験研究：研究デザイン、測定指標ならびにその評価方法について学修する。 (4 山内栄子/3回) 質的研究：インタビュー調査、その内容分析、質的記述的研究方法について学修する。 (10 藤村一美/2回) エスノグラフィー：エスノグラフィーを用いた研究の特徴ならびにその手法について学修する。 (2 八杉巧/2回) 英語論文の書き方：英語でのプレゼンテーションならびに英語論文の書き方について学修する。 (5 崎山貴代/2回) 介入研究：個別・家族単位、あるいは地域全体のケアニーズの分析ならびにその介入方法やサポート体制を構築する研究方法について学修する。 (17 齊藤功/3回) 疫学研究手法：疫学研究デザインの原理と方法論、コホート研究、ランダム化試験、症例対照研究の手法を学修する。 (6 佐伯由香/1回) 研究計画のプレゼンテーションとまとめ</p>	オムニバス方式
	特別研究	<p>(概要) 地域包括ケアを推進するために様々な発達段階や健康レベルに応じた生活支援方法やケアシステムの開発を目指した研究活動を実施し博士論文を作成する。 ・研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。 ・研究倫理審査を受け、研究フィールドにおけるデータ収集を行う。 ・収集したデータの分析を行い、博士論文を作成する。</p> <p>(9 陶山啓子) 様々な健康レベルにある高齢者の健康問題、高齢者の生活の場における看護実践の質にかかわる要因やエビデンスのある看護実践について多面的に文献検討し、高齢者が住み慣れた環境で最期まで、生活機能を最大限に活用して生活するための課題を、看護方法やケア提供施設・機関などの環境の視点から明らかにし、課題解決に有用な研究指導を行う。</p> <p>(6 佐伯由香) 緩和ケアや清潔ケアなど、ケア技術の科学的根拠の探究を実験的な手法によって解明するための研究方法論についての指導を行う。また、実験から検証された看護ケア技術が、看護実践の中で、どのように機能するかを実証し、創造性、独創性を備えた論文作成のための研究指導を行う。</p> <p>(7 谷向知) 地域で生活する認知症、発達障害を含む精神領域で取り組むすべての障害者へ共有できるケアアプローチの方法や仕組みを探索するとともに、地域包括ケアのなかで議論されずにいる障害者自助についても焦点をあて、具体的なケアの開発及び地域での仕組みづくりに資する研究指導を行う。</p>	

<p>特別研究</p>	<p>地域包括ケア開発学特別研究</p>	<p>(8 西嶋真理子) 看護学の立場から、家族、地域全体のケアニーズの分析、フォーマル・インフォーマルなサポート体制づくり、ケアマネジメントの仕組み等のモデル開発に関する研究を行う。住民・多職種連携、支え手となる世代や子どもも含めたインクルーシブな地域開発やヘルスプロモーションの視点を加える等、公衆衛生看護学の視点から、地域包括ケア体制の構築に寄与できる研究指導を行う。</p> <p>(12 田中久美子) 在宅における看取りや排泄ケアなど中心に、在宅療養者とその家族のニーズの分析や医療・生活上の課題の抽出、ケアの開発、ケアシステムの構築を目指した研究指導補助を行う。</p> <p>(2 八杉巧) 近年、高齢者の心臓血管の手術症例が増加している。循環器疾患の周術期ケアにおける地域連携の効率化を目指すため、手術対象となる循環器疾患の病態を理解し、早期発見に地域を挙げて取り組める体制を整える必要がある。心臓手術や下肢切断などの術後に行われる下肢運動のリハビリや歩行を含む術後ケアの標準化を行い、QOL向上のための方策を探求する研究指導を行う。</p> <p>(3 薬師神裕子) 子どもがどの地域に住んでいても、適切な医療・保健・福祉を継続して受けられるように、医療・行政・教育機関と地域社会で子どもに関わる人々とのネットワーク構築のあり方を学修する。NICUを退院する子ども、在宅医療を必要とする医療依存度の高い子ども、小児慢性疾患を持つ子どもと家族の生活モデルを基盤とした在宅移行支援に重要な小児等在宅医療連携拠点事業や医療的ケア、レスパイトケアの実際について学び、小児を対象とした地域包括ケアの課題と現状を理解することを目指した研究指導を行う。</p> <p>(4 山内栄子) がん患者を含む慢性疾患を有する人々の看護の場において生起する看護事象の構造の明確化と、それらをもとに地域包括ケアの視点からの看護介入モデルの開発や看護ケアの評価方法の開発および、看護職者の看護実践能力を育むための看護学教育プログラムの開発を目指した研究指導を行う。</p> <p>(5 崎山貴代) 妊娠期から子育て期に渡る切れ目ない支援を目指す妊娠・出産地域包括支援を中心として、これらの地域包括支援が円滑に行われるように、すべてのライフステージにある女性のリプロダクティブ・ヘルス/ライツの尊重を基盤とした研究課題を探索し、ケアの開発、実践および検証に相応する研究方法を選択し、データを収集、解析し、論文の作成を目指した研究指導補助を行う。</p> <p>(1 乗松貞子) 健康に影響を及ぼす人間の自然治癒力を高めるための快適な生活環境、快適な看護ケアについて、生理・心理学的両面から科学的根拠を追求し、病院のみならず在宅療養も視野に入れた快適な生活環境の調整及び看護ケアの確立を目指す。さらに、経験的に行われている臨床現場の看護技術についてその科学的根拠を追求することを目指した研究指導を行う。</p> <p>(10 藤村一美) 地域の健康問題とその関連要因を健康レベル別、対象別に量的・質的に探求し、保健医療福祉を統合した支援方法、およびケアシステム構築のための実践ならびに研究の方向性を確立することを目指した研究指導を行う。</p> <p>(11 赤松公子) 生活に支障をきたす現象を、多面的なモデルを用いて分析する。その結果に基づき、人々の快適で健康的な暮らしを支える看護ケアを客観的に評価できる指標の作成を目指した研究指導補助を行う。</p> <p>(13 城賀本晶子) 地域で暮らす人々が成熟期後半から閉経周辺期、老年期前半にかけ、性腺機能の衰えから自覚する主観的な症状について、客観的に評価する方法を探索する。看護の立場から、このような症状とストレス負荷状態、自己効力感などの内的状況あるいは生活習慣との関連を探り、具体的なケアの在り方やQOL向上に必要な課題を研究内容として設定した研究指導補助を行う。</p>	
-------------	----------------------	---	--

# 愛媛大学 設置申請に関わる組織の移行表

	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>愛媛大学</b>										
法文学部			3年次			法文学部			3年次	
人文社会学科						人文社会学科				
(昼間主コース)	275	10		1,520		(昼間主コース)	275	10		
(夜間主コース)	90	20				(夜間主コース)	90	20		
教育学部						教育学部				
学校教育教員養成課程	140	—		640		学校教育教員養成課程	160	—	640	定員変更(20)
特別支援教育教員養成課程	20	—				特別支援教育教員養成課程	0	—		令和2年4月学生募集停止
社会共創学部						社会共創学部				
産業マネジメント学科	70	—				産業マネジメント学科	70	—		
産業イノベーション学科	25	—		720		産業イノベーション学科	25	—		
環境デザイン学科	35	—				環境デザイン学科	35	—		
地域資源マネジメント学科	50	—				地域資源マネジメント学科	50	—		
理学部						理学部				
理学科	225	—		900		理学科	225	—	900	
医学部			2年次			医学部			2年次	
医学科	110	5		942		医学科	95	5		定員変更(Δ15)
看護学科	60	10	3年次			看護学科	60	10	930	※医学部医学科の定員15名の増加については、平成31年度までの措置。
工学部			3年次			工学部			3年次	
工学科	500	10		2,020		工学科	500	10	2,020	
農学部			3年次			農学部			3年次	
食料生産学科	70	5				食料生産学科	70	5		
生命機能学科	45	2		700		生命機能学科	45	2	700	
生物環境学科	55	3				生物環境学科	55	3		
計	1,770	5	2年次	7,442		計	1,755	5	2年次	7,430
			3年次						3年次	
			60						60	
<b>愛媛大学大学院</b>										
法文学研究科						法文学研究科				
綜合法政策専攻(M)	15	—		30		綜合法政策専攻(M)	0	—	0	令和2年4月学生募集停止
人文科学専攻(M)	10	—		20		人文科学専攻(M)	0	—	0	令和2年4月学生募集停止
教育学研究科						教育学研究科				
特別支援教育専攻(M)						特別支援教育専攻(M)				
特別支援学校教育専修	5	—		10		特別支援学校教育専修	0	—	0	令和2年4月学生募集停止
特別支援教育コーディネーター専修	6	—		6		特別支援教育コーディネーター専修	0	—	0	令和2年4月学生募集停止
教科教育専攻(M)	20	—		40		教科教育専攻(M)	0	—	0	令和2年4月学生募集停止
学校臨床心理専攻(M)	9	—		18		学校臨床心理専攻(M)	0	—	0	令和2年4月学生募集停止
教育実践高度化専攻(P)	15	—		30		教育実践高度化専攻(P)	40	—	80	研究科の専攻の設置(事前伺い)
心理発達臨床専攻(M)						心理発達臨床専攻(M)	10	—	20	研究科の専攻の設置(事前伺い)
医学系研究科						医学系研究科				
医学専攻(D)	30	—		120		医学専攻(D)	30	—	120	
看護学専攻(M)	16	—		32		看護学専攻(M)	2	—	6	研究科の専攻に係る課程の変更(意見伺い)
看護学専攻(M)						看護学専攻(M)	12	—	24	定員変更(Δ4)
理工学研究科						理工学研究科				
生産環境工学専攻(M)	62	—		124		生産環境工学専攻(M)	62	—	124	
物質生命工学専攻(M)	61	—		122		物質生命工学専攻(M)	61	—	122	
電子情報工学専攻(M)	59	—		118		電子情報工学専攻(M)	59	—	118	
数理物質科学専攻(M)	40	—		80		数理物質科学専攻(M)	40	—	80	
環境機能科学専攻(M)	28	—		56		環境機能科学専攻(M)	28	—	56	
生産環境工学専攻(D)	6	—		18		生産環境工学専攻(D)	6	—	18	
物質生命工学専攻(D)	5	—		15		物質生命工学専攻(D)	5	—	15	
電子情報工学専攻(D)	4	—		12		電子情報工学専攻(D)	4	—	12	
数理物質科学専攻(D)	4	—		12		数理物質科学専攻(D)	4	—	12	
環境機能科学専攻(D)	4	—		12		環境機能科学専攻(D)	4	—	12	
農学研究科						農学研究科				
食料生産学専攻(M)	26	—		52		食料生産学専攻(M)	26	—	52	
生命機能学専攻(M)	23	—		46		生命機能学専攻(M)	23	—	46	
生物環境学専攻(M)	23	—		46		生物環境学専攻(M)	23	—	46	
連合農学研究科						連合農学研究科				
生物資源生産学専攻(D)	9	—		27		生物資源生産学専攻(D)	9	—	27	
生物資源利用学専攻(D)	4	—		12		生物資源利用学専攻(D)	4	—	12	
生物環境保全学専攻(D)	4	—		12		生物環境保全学専攻(D)	4	—	12	
計	488	—		1,070		計	476	—	1,054	